

特定非営利活動法人 東海自然学園 平成26年度 総会議案書

日時：平成26年6月18日（水）13時半
会場：田代コミュニティーセンター

議事次第

- 1、 開会式
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第1号議案 平成25年度事業報告の件
 - 第2号議案 平成25年度収支決算報告の件
 - 第3号議案 平成26年度事業計画の件
 - 第4号議案 平成26年度収支予算計画の件
 - 第5号議案 平成26年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

【平成25年度方針】

●10年の実績をより多くの人に伝え、さらなる飛躍につなげよう！

上記の年度方針を念頭に、各部や科において学園の広報に力を入れた。学園祭ではそれぞれの部や科、クラブが、普段の活動内容や成果をわかりやすく展示・発表し、一般見学者へ強くアピールすることができた。また、新聞記事として掲載され、これまで学園の存在を知らなかった人にも10年の実績とともにNPO 東海自然学園を知ってもらうことができた。

スタッフと受講生が一丸となり、10周年の節目となる次年度に向けて勢いをつけることができたと感じる1年だった。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

花組28名、星組28名の受講生でスタート。合宿・学園祭・修学旅行を含めて全30回の講座を実施した。

◇実施日

- ・花組 第1・第3火曜日 (全30回)
- ・星組 第2・第4火曜日 (全30回)

◇担当

- ・花組 スタッフ4名、アシスタント2名
- ・星組 スタッフ4名、アシスタント2名

◇修了者・皆勤者数

- ・花組 27名 (1名途中退学) ◎1年間皆勤5名
- ・星組 25名 (1名出席日数不足、1名休学、1名途中退学) ◎1年間皆勤8名

◇資格取得者(自然観察アドバイザー)

- ・花組 (13名) ・星組 (12名)

◇内容報告

- ・両クラス共に大きな事故やトラブルなどなく安全に運営することができた。
- ・「身近な野草」の講座はOB(第1期生)の櫻井氏に初めて講師を依頼し、講師が熟知しているフィールド「小幡緑地」にて講座を行った。事前にこちらの目的や想いを伝え、また講師と共に現地を下見するなどしたため、当日は問題なく実施することができた。また受講生の評価も大変良好だったため、来年度以降も継続を希望する。
- ・合宿時のリーダーミーティングでは学園の運営や広報などへの前向きな意見や提案が多くあり、その後も積極的に知人や友人などに学園を紹介して下さるなど、多くの協力、支援を頂いた。
- ・委員会活動はそれぞれのリーダーを中心にまとめ、様々なアイデアの中で目的達成した。

【企画委員会】

- ・**花組**〈日帰り企画〉東山植物園ガイド付き観察会・その後懇親会 (25名参加)

- ・ 〈修学旅行〉木工体験・トヨタ白川郷自然学校にて雪の森ガイドウォーク (23名参加)
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉いが栗の里で栗拾い、ふれあい牧場 BBQ、馬籠宿見学 (21名参加)
- ・ 〈修学旅行〉長野県車山高原にてスノーシュー体験ほか (21名参加)

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人のレポートを立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

- ・ **花組** 〈ステージ〉『みつけた自然』について班ごとに映像やクイズなどで発表。
〈展示〉各個人が『みつけた自然』を展示。自然クラフト作品や絵など。
- ・ **星組** 〈ステージ〉『自然と楽しいお友達になろう！』をテーマにクイズなど各班で発表。
〈展示〉自然工作入門の講座で作った皆の作品を、しめ縄と様々な木の実で飾り展示。
〈ワークショップ〉しめ縄づくり体験教室。大好評でたくさんの参加があった。

■高等科

30名の受講生でスタートし合宿・学園祭・修学旅行を含めて全30回の講座を実施した。

◇実施日

- ・ 金曜日 (全30回)

◇担当

- ・ 5名

◇修了者数

- ・ 30名 (全員修了) ◎2年間皆勤者 (7名) ◎1年間皆勤者 (11名)

◇資格取得 (自然観察上級アドバイザー)

- ・ 15名

◇実施内容

- ・ 30回の全講座、事故などなく安全に実施することができた。
- ・ 合宿場所、時期を変更。
→前年までの「大白川」も非常に魅力的なフィールドだったが、道路事情 (大雪の影響等)、梅雨の回避等を考慮して「宇津江四十八滝」「タンナカ高原」に変更。特に大きな問題などなく、受講生の評価も良かった。
- ・ 科目「野鳥の世界を理解する」を2回に増やした。
→講師=佐藤紳司、フィールド=築水の森
- ・ 新規会場 (座学・フィールド) の開拓。特に座学会場の確保として2か所を新規利用した。
→ ○滝川コミセン (隼人池の座学会場)
○戸田川緑地 (企画づくり、インタープリテーションの2回)
- ・ バスツアー場所の変更 (講師が代わり、ツアーの行先などを変更)。
→新講師=鈴木和博、フィールド=三河断層方面
- ・ 委員会はその委員会も真面目に取り組み、それぞれの目的を達成することが出来た。

【企画委員会】

- ・ (日帰り企画) トヨタの森にてインタープリターと共に自然観察。懇親食事会 (27名参加)
- ・ (修学旅行) とことん琵琶湖&とことん親睦 [竹生島・琵琶湖博物館・水生植物公園・近江八幡・水郷巡り・安土城跡などを見学。]

【観察記録委員会】

- ・ 『自然』を全体テーマにし、班ごとにまとめた。
A班) 自然で生きる B班) 自然によりそう C班) 自然を観る D班) 自然はかしこい

【学園祭委員会】

- ・ 〈ステージ〉『自然界の不思議～命をつなぐ～』をテーマに劇や替え歌などで盛り上げた。
- ・ 〈展示〉『自然からの恵み～日本の色の伝統～』をテーマに色にまつわる様々な自然を班ごとに紹介。
- ・ 〈ワークショップ〉様々な花や葉の押し花を使って、しおり作り教室を開催。好評だった。

■カリキュラム選択科

24年度は新しい科目が多くあり、選択科受講生ものべ58名あったが、25年度は新しい講座が1つしかなかったことで、選択科受講生はのべ35名だった。

- ・「野草を味わう」 1名
- ・「湿地を知る」 2名
- ・「身近な森林から学ぶ」 3名
- ・「樹木を守る」 2名
- ・「中部の植物観察①」 2名
- ・「地質と文化」 3名
- ・「森林保全を学ぶ①」 1名
- ・「地質めぐり」 2名
- ・「中部の植物観察②」 3名
- ・「どんぐりを知る」 4名
- ・「野鳥の世界を理解する①」 8名 ★
- ・「野鳥の世界を理解する②」 4名

※注) ★印が新しい講座

■専修科

高等科修了後、更に学びを深めたいというニーズに応えるため、24年度から準備を進め、25年度より発足。

◇担当 3名

◇実施内容

- ・ 5講座を実施し、延べ11日の講座を20名の定員で開催。(内宿泊講座は2回)
- ・ 既設講座のノウハウを参考に手探りで進めたが、事故もなく計画通り実施できた。
- ・ 各講師も期待通りの講座内容で、受講生にも大変好評であった。
- ・ 宿泊講座の参加費用を出来るだけ低く抑えるように工夫する必要がある。

広報

◇担当 4名

◇方針 積極的に新しい広報策を模索し、実践する。

◇目標 (1) 定員を満たして10周年を迎えられるよう、基礎科70人確保する。
(2) 初となる「営業活動」に挑戦し、広く東海自然学園をPRする。

◇実施内容

- これまでの状況を振り返り、早い時期から募集を始めることで、より多くの人の目に触れ、効果的に募集ができるのではないかと考え、早期からの募集に挑戦した。それに伴い、パンフレットの数も1万部から1万5千部に増刷した。
- 早期(8月上旬)には行政や各施設、OBなどに新パンフレットを発送し、募集をよびかけたところ、良いペースで申込みがあった。
- 初めて「体験入学」の開催にも挑戦し、募集定員以上の40名の参加があった。また「体験入学」をしたその日に9名から申込みがあり、「体験入学」の実施は大変効果的だったと言える。また、講師や講座の内容に関しても、とても好評だった。
- 新聞社への記事掲載依頼も積極的に行い、学園祭の記事が中日新聞に掲載され、天白観察会などの告知も「イベント案内欄」に何度か掲載された。
- 中日新聞の元旦(テレビ欄)に広告記事を掲載したところ、多くの問い合わせがあり、17名もの申込を得ることができた。初の元旦紙面掲載は成功だった。
- 紹介カードも早期から配布し、多くの方が協力をして下さった。その結果、紹介により入学した方の人数は25名にもものぼった。
- 積極的に新しい取り組みに挑戦した結果、開校以来初めて全クラス定員いっぱいの申し込みを受けることができ、目標を達成した。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

◇環境教育科の方針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術を取得、向上を実施する。
また、利益を追求する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の技術向上や社会貢献的価値のある事業を実施する。

◇担当 4名

◇科員 39名

◇25年度の年間目標

- ① 企画から準備、本番、片づけまでの一連の作業を全メンバーで役割分担し、個々の負担を減らすとともに、科員のアイデアを活かした運営をする。
- ② なごや環境大学（下期）に企画を申請する。…全員で企画を考え取り組む。
- ③ 継続行事を大切にしながらも、新しい地での新企画に挑戦する。
- ④ 「伝える」を重視したプログラムの企画、実施に挑戦する。

◇実施内容

- ・定例活動・・・14回（臨時活動2回含む）
- ・継続行事及び新規行事・・・延20回
（大曽根商店街 夏・冬4日、戸田川緑地公園6日、なごや環境大学4回など）

◇目標の達成度

●年間目標①について

- ・毎月の定例活動日に「個々のアイデアや新作発表」の時間を設け、自主的に自らが作った作品や、各地で目にした情報・アイデアなどを発表してもらった。毎回、何人かの発表があり、皆からのアイデアや企画提案を取り入れることにより、作品の幅がぐっと広がり大変効果的だった。すべての行程（企画から準備、片づけまで）を全員で役割分担することは難しかったが、以前に比べ、全員でつくり上げているという雰囲気が出た。

●年間目標②について

- ・なごや環境大学の下期に「これを学べばクルミ博士！」4回連続講座を企画申請。担当スタッフのみではなく、講座毎に科員からサポートスタッフを募り、共に企画、下見、準備、試作、本番の一連の作業に取り組んだ。その結果、大変幅の広いプログラムを展開することができ、4回の講座全てにおいて参加者からの評価も良く目標を達成することができた。

●年間目標③について

- ・大曽根商店街夏祭り・クリスマスイベントは継続行事として今年度も参加し大勢の来客があった。更に新規行事として、中川生涯学習センター受託事業・戸田川緑地公園「コスモス祭り」「秋祭り」・イオンタウン名西・地球市民交流センター「パートナーフェス」・名古屋市科学館・弥富市保育士研修 の6事業に挑戦することができ、いずれも多く参加者があり、多忙ではあったが、全力で取り組んだことで目標を達成することができた。

●年間目標④について

- ・「伝える」を重視した企画については、中川生涯学習センターにて実施した「親子で工作、リサイクル」で、アルミ缶のリサイクルについてクイズ形式で伝えることが出来た。また、弥富市保育士研修においては、身近にある木の実や葉の種類、採集時期、保存の仕方などについて伝えることができ、目標を達成することができた。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

昨年度よりレギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース(在籍4年以下)」と「キャリアコース(在籍5年以上)」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

◇実施日 第2、第4月曜日

◇担当 2名

◇人数 34名

◇実施内容

○全22回の講座を実施……座学 7回 ・ フィールド 15回

☆座学…「私のなかの初夏」「街路樹」「夏の生物」「冬の自然」「外来生物」「春を待つ」他

☆野外…「みたけの森」「相生山緑地」「面の木峠」「上高地」「蒲郡 竹島」「伊吹山」他

○会員対象の自然観察会を実施

11月25日(月) 於天白公園 科員25名、一般会員5名 合計30名参加

キャリアコース

◇実施日 原則として第2・4月曜日

◇担当 1名

◇人数 14名

◇実施内容

●全22回の講座実施・・・フィールド：12回、座学：1回、その他：9回

・フィールド：多度山、七宗、伊吹北尾根、猿投山、くらがり溪谷、青木ヶ原、郡上大和、中池見湿地、御岳山、面の木、宮路山、犬山

●一般対象天白公園自然観察会(天白公園整備クラブと共催)を4回実施。

・実施日：5/27,7/8、10/28、3/10 (下見実施：4回)

・参加者：延べ75名(前年に比べ19名増加)(3月度11期生が16名参加)

●基礎科の講座を受託

・テーマ「冬の森の観察」 ・場所：海上の森、山口公民館

・実施日：2/4(花組)、2/18(星組)

・事前準備：3回の下見を実施し、リハーサルを重ねた。

◇総括

●新しい試み(基礎科受託講座)を含め当初計画通り実施できた。

●座学の回数は少なかったが、天白公園観察会、受託講座準備の中で実践できた。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 7名

◇方針

新たな柱として学園の活動を支え、盛り上げる事業を企画し、その実現に向けて他部署(科)との連携を深め取り組む。

◇年間目標

●初めて営業に挑戦し、行政や企業へのアンテナを張る。

- 助成金情報を常に調査し、その情報を一覧にして今後活かせる資料を作る。
- 助成金事業を1つ以上は獲得する。
- 新規事業として「東海こども自然大学」の企画を1年間かけて練り上げる。
- 来年度の10周年イベントが充実した内容になるよう今年度中に企画を練り上げる。

◇実施内容

多くの目標を立て、新しい事業の立ち上げや、営業活動への意欲を燃やしていたが、講座部との兼任スタッフが多い事や、助成金事業の獲得が上手くいかなかったことなどがあり、目標達成が難しい部分があった。

○助成金事業について

積極的にインターネットや新聞などから助成金に関する情報を集め、1年間で4つの助成金事業に挑戦したが、全て獲得には至らず結果が伴わなかった。

〈申請した助成金事業〉

- ・東海ろうきんNPO育成支援助成事業・ドコモ市民活動団体への助成事業
- ・パチンコ大衆文化福祉応援助成事業・人と自然の共生国際フォーラム活動助成事業

○新規事業『東海こども自然大学』の企画

・より具体的な内容まで詰めることができ、上記助成金に申請。しかし、助成金の獲得ができず、年度内での実施はできなかった。

○10周年イベントの企画

・様々なアイデアを出し合い、具体的な企画案を理事会に提出することができた。
この企画内容を次期担当に引き継ぐ。

交流部

◇担当 5名

◇目的 OB会員の活性化と交流を目的としたプログラムを企画、実施する。

◇実施内容

〈OB ツアー〉

- 日時：10月17日（木）～18日（金） 1泊2日
- 行先：宇津江四十八滝 タンナカ高原
- 参加者25名（担当スタッフ4名含む）
- 講師：小野木三郎氏

天候にも恵まれ、秋のさわやかな高原を散策し、期を超えた参加者同士の交流が深まった。

〈あらくさの発行〉

- 計画通り年4回発行
- 各クラスからの編集委員と担当スタッフとで編集会議を開き「あらくさ」を仕上げる事が出来た。
- 依頼原稿のほかに自主的な投稿があった。また、それぞれのクラスに紙面を担当していただくという新企画を取り入れた。

〈クラブ活動〉

「野鳥クラブ」

○現登録30名 ○会費1,000円

○活動方針 野鳥と自然に親しみ、野鳥と自然についての観察を通じて、会員相互の親睦を図り、楽しむことを目的として、探鳥会を開催する。

○目標

探鳥会は年に四回開催を計画。内容は探鳥と鳥や植物を楽しむ散策とを織り交ぜます、探鳥会には適宣ガイドを依頼、日本野鳥会定例探鳥会にグループ参加する企画を織り込む。

学園祭に出展するため夏ころより準備する、懇親会を計画して会員の親睦・交流を深める。

○今年度の活動実績

- 5/18 「海上の森で探鳥会16名参加」 10/22 「庄内緑地公園で探鳥会17名参加」
- 11/7 「学園祭でブース出展」 2/9 「海上の森で探鳥会8名参加」
- 3/9 「小幡緑地公園で探鳥会19名参加」

「写真クラブ」

- 現登録43名 ○会費1,000円
- 活動方針 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境などを被写体にして写真撮影と作品作りを楽しむ。会員相互の交流と親睦をはかる。
- 目標
撮影会、例会を年に10回程度開催。パソコン教室の計画：デジタル写真の取り扱いの基礎知識を習得。作品展の計画（学園祭など）
- 今年度の活動実績
4/10 猿投桃畑撮影会、4/19・22 「パソコン教室8名参加」 5/16 「昭和の森撮影会と懇親会23名参加」 7/10 「蓼科高原撮影会22名参加」 9/25 「有松絞り会館と有松の町で撮影会24名参加」 11/7 「学園祭ブース出展・ワークショップ開催」

「自然体験クラブ」

- 現登録42名 ○会費1,000円
- 活動方針 年に四回の全体行事として四つの組が持ち回りで開催する。
- 目標
様々な自然体験を通して自然に親しみ、会員相互の親睦をはかり楽しむことを目標とする。
- 今年度の活動実績
5/4 「南宮山他散策22名参加」 9/25 「愛知陶磁美術館で作陶体験14名参加」 11/7 「学園祭でブース出展」 11/26 「愛岐トンネルと定光寺25名参加」 3/27 「白鳥公園・熱田の森・堀川の桜25名参加」

「地質クラブ」

- 現登録57名 ○会費1,000円
- 活動方針 現地観察会にて、東海地方の地質の成り立ちを学ぶ。
現地観察会を年四回開催する。
- 今年度の活動実績
6/5 「鵜沼の木曾川河畔29名参加」 10/2 「鬼が島付近の可児川河畔・鳩吹山31名参加」 1/27 「可児やすらぎの森30名参加」 3/26 「鳳来寺山17名参加」

「植物クラブ」

- 現登録61名 ○会費1,000円
- 活動方針 植物クラブに入会して良かったと言われるような会にする。
- 目標
植物を楽しく観察し知る事で、自然の叡智に驚かされ癒され、そして興味を持つことで自然を大切に、美しい日本とかけがえのない地球を保護する心を養います。そしてそこで知った事を孫子に楽しく教え伝えるのが私達の植物クラブです。
- 今年度の活動実績
5/17 「海上の森で観察会28名参加」 7/12・17 「安城デンパーク16名参加」
9/27 「築水の森で観察会23名参加」 11/13 「庄内公園で観察会23名参加」
3/20 「文化の道双葉会館で総会23名参加」

「植物アートクラブ」

- 現登録18名 ○会費3,000円
- 活動方針 初心を忘れずに、基礎を忠実に守っていく。月ごとに課題を設けその内容に沿った作品を仕上げ、全員での観賞会、講師の講評・助言を通じ資質の向上・親睦を図る。
- 目標 それぞれの課題に挑戦しレベルアップを目指す。
- 今年度の活動実績
4/25 「内覧会」 5/8 「春の恵那路花めぐりと親睦会」 11/7 「学園祭ブース出展」
※上記の他、活動日として毎月第4木曜日に活動。

「ふふふキラキラクラブ」

- 現登録32名 ○会費1,000円
- 活動方針 活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

○目標

「森・里・川・町・海」に関連して、食を通して楽しみ相互交流をはかる。発表会：年に一回、会員の「ふふふ」結果を、自分だけで独占するのではなく、活動成果を発表し、楽しみを会員相互に分かち合う。

○今年度の活動実績

6 / 30 「七里の渡し他 11名参加」 11 / 30 「犬山城・寂光院 7名参加」
2 / 22 「一宮・木曾川 9名参加」

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- 平成25年度は整備地の南部（B地区）を中心に目標である「植生豊かな森、心がなごむ森を目指す森林整備活動と人材育成を目指す」を実践。
下記の内容で、大きな事故などなく安全に整備作業を行った。
 - ◇実施日・・・第2、4木曜日
 - ◇登録者・・・37名
 - ◇活動区域・・・森林公園（植物園内）の主に北側（8・2ha）県有林
 - ◇活動内容・・・ ●植生調査実施 ●希少植物の保護活動 ●下草整備
●枯葉・落ち葉の整備 ●除伐 ●観察会
- 年間活動日・・・562名の延べ人員で、21日活動を実施。
- 基礎科の体験講座を担当実施（10/10、11/14）
- 高等科の講座「森林保全を学ぶ」の実習を担当
 - ◇実施日・・・11月29日（金）
 - ◇内容・・・森林公園内整備地で整備体験の指導（植生調査・除伐体験など）

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

＜第2号議案＞ 平成25年度収支決算報告

活動計算書			
平成25年4月1日～平成26年3月31日まで		特定非営利活動法人東海自然学園	
科 目	金 額 (単位:円)		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取入会金			
正会員受取会費	110,000		
利用会員受取会費	876,000	986,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	478,029	478,029	
3. 受取助成金等			
受取助成金	0	0	
4. 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	10,403,200		
普及啓発事業収益	662,773		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	510,000		
自然環境保全事業収益	60,000		
その他目的達成のための事業収益	0	11,635,973	
5. その他収益			
受取利息	2,054		
雑収益	30,820	32,874	
経常収益計			13,132,876
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,272,000		
通勤手当	128,920		
法定福利費	486,109		
人件費計	3,887,029		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,535,608		
教材費	361,038		
会場費	349,180		
広報費	423,540		
リーフレット代	319,095		
講師交通費	68,130		
スタッフ交通費	938,690		
バス代	62,250		
合宿費	2,846,530		
消耗品費	55,776		
雑費	34,127		
家賃	600,000		
接待交際費	24,500		
水道光熱費	113,715		
コピー機維持費	160,641		
保険料	120,522		
通信運搬費	146,386		
郵送費	316,391		
諸会費	30,000		
その他経費計	8,506,119		
事業費計		12,393,148	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	172,800		
福利厚生費	5,000		
人件費計	177,800		
(2) その他経費			
旅費交通費	14,500		
事務用品費	33,361		
租税公課	600		
外注委託費	65,890		
雑費	28,774		
その他経費計	143,125		
管理費計		320,925	
経常費用計			12,714,073
当期経常増減額			418,803
III 経常外収益			
営業外収益計			0
IV 経常外費用			
営業外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			418,803
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増減額			418,803
前期繰越正味財産額			6,271,058
次期繰越正味財産額			6,689,861

貸借対照表

平成26年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額 (単位:円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	17,710,952	
立替金	27,165	
前払費用	123,620	
流動資産合計		17,861,737
2 固定資産		
敷金	100,000	
固定資産合計		100,000
資産合計		17,961,737
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	453,589	
前受金	10,756,525	
預り金	61,762	
流動負債合計		11,271,876
2 固定負債		
	0	
固定負債合計		0
負債合計		11,271,876
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		6,271,058
当期正味財産増加額		418,803
正味財産合計		6,689,861
負債及び正味財産合計		17,961,737

財産目録

平成26年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	137,785		
普通預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	15,570,767		
定期預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	2,002,400		
立替金 バス代	27,165		
前払費用 次年度会場費他	123,620		
流動資産合計		17,861,737	
2 固定資産			
敷金			
事務所賃借敷金	100,000		
固定資産合計		100,000	
資産合計			17,961,737
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金 3月分給与	247,200		
3月分社会保険料	65,781		
交通費他	140,608		
前受金 次年度分受講料、年会費	10,756,525		
預り金 源泉所得税、社会保険料	61,762		
流動負債合計		11,271,876	
2 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負債合計			11,271,876
正味財産			6,689,861

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

建物は定額法で償却しています

付属設備、構築物、車両運搬具、什器備品は定率法で償却しています

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています

2. 事業費の内訳

(単位:円)

科目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	合計
(1)人件費							
給料手当	2,617,600	392,640	32,720	196,320	32,720		3,272,000
通勤手当	103,140	15,472	1,286	7,736	1,286		128,920
法定福利費	388,894	58,335	4,857	29,166	4,857		486,109
福利厚生費							0
人件費計	3,109,634	466,447	38,863	233,222	38,863	0	3,887,029
(2)その他経費							
講師謝礼金	1,465,608	70,000					1,535,608
教材費	287,894	73,144					361,038
会場費	285,380	44,200			19,600		349,180
広報費	423,540						423,540
リーフレット代	319,095						319,095
講師交通費	58,130	10,000					68,130
スタッフ交通費	865,080	64,650			300	8,660	938,690
バス代		62,250					62,250
合宿費	2,341,676			504,854			2,846,530
消耗品費	55,279	497					55,776
雑費	33,183	262		682			34,127
家賃	480,000	72,000	6,000	36,000	6,000		600,000
接待交際費	19,600	2,940	245	1,470	245		24,500
水道光熱費	90,979	13,650	1,131	6,824	1,131		113,715
コピー機維持費	128,518	19,279	1,603	9,638	1,603		160,641
保険料	96,418	14,463	1,205	7,231	1,205		120,522
通信運搬費	117,115	17,569	1,461	8,781	1,460		146,386
郵送費	253,120	37,972	3,159	18,983	3,157		316,391
諸会費	24,000	3,600	300	1,800	300		30,000
雑費							0
その他経費計	7,344,615	506,476	15,104	596,263	35,001	8,660	8,506,119
合計	10,454,249	972,923	53,967	829,485	73,864	8,660	12,393,148

3. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
				0		0
				0		0
				0		0
合計	0	0	0	0	0	0

4. 借入金の増減内訳

(単位:円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金				
長期借入金				
役員借入金				
合計	0	0	0	0

監査報告書（別紙貼り付け）

<第3号議案>

平成26年度事業計画

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

【平成26年度方針】

- 学園をあげて10周年を盛り上げよう。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・高等科へのアピールを工夫し、進学率を高める。
- ・全員が1年間の講座を楽しく修了できるようサポートする。

◇担当 8名 (+アシスタント4名)

◇人数 全70名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週金曜日)

◇実施内容

- ・年間カリキュラム(30日間)の運営・進行。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・今年度、新しく加わった講座を含め、高等科として魅力ある内容であるかを常に確認しながら、次年度に繋がる運営を行う。

◇担当 5名

◇人数 36名

◇実施日 火曜日(不定期)

◇実施内容

- ・年間30日間のカリキュラムの実施。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■カリキュラム選択科

- ・高等科のカリキュラムに新しい分野を取り入れるなどし、OBの関心を深める。

◇人数 延べ27名

■専修科

- ・年間カリキュラムを安全面に留意して計画通り運営すると共に、次年度以降受講生を継続的に確保するための具体策を立案する。

◇担当 3名

◇人数 20名(一部17名)

◇実施日 不定期

◇実施内容 年間6講座、延べ11日間のカリキュラムの実施。

- ① 昆虫（特に蝶類）の不思議な生態・・・・・・・・全2回
- ② 乗鞍&新穂高で学ぶ「高山・亜高山植物」・・・・1泊2日
- ③ 飛騨の自然と文化から学ぶ・・・・・・・・1泊2日
- ④ 東海地区の湿地の成立ち・・・・・・・・全2回
- ⑤ 東海地区の2つの極相林：ブナ林とシイ・カシ林を訪ねる・・・全2回
- ⑥ 大人のための竹細工・・・・・・・・全1回

広報

- ◇担 当 4名
- ◇方 針 積極的に新しい広報策を模索し、実践する。
- ◇目 標 (1) 戦略的広報活動を目指し、第12期生70人確保する。
(2) 「営業活動」に挑戦し、広く東海自然学園をPRする。

◇計画内容

- (1) ホームページの内容を見直し、一般にも会員にも魅力あるホームページに改善する。
- (2) 募集パンフレットの内容を見直し、より分かりやすい内容に改善する。
- (3) 過去の募集状況を分析し、それを活かした営業活動に挑戦する。
- (4) 新聞社に投稿、取材依頼など積極的に行う。
- (5) 体験入学を2回に増やす。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担 当 5名
- ◇方 針
社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。
また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。
- ◇目標
 - アウトプットは無理をせず、インプット（吸収）に力を入れる1年とし、インプット（吸収）したものを、新しい成長に繋げる。
 - 互いの技術や知識を高め合うための、講習会やアイデア会議などを積極的に取り入れる。
 - より多様な自然素材を、良い状態で収集し、保存する。（その方法を学ぶ、探る、研究する）
- ◇参加予定イベント
 - 戸田川緑地「花まつり」・・・・5/5土～5/6日
 - 大曾根商店街七夕まつり・・・・7/25金～7/27日
 - 学園祭・・・・11/11火～11/12水
 - 大曾根商店街クリスマス・・・・12/13土

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

レギュラーコース

◇担当 2名

◇実施日 第2、4月曜日

◇人数 44名 (A班～D班の班体制)

◇目標

- ① 企画段階から全科員が参画する。
- ② 基礎科・高等科で学習した知識をさらに高める。
- ③ 年間講座計画を早期に立案し、講座の事前準備の充実と計画を達成する。

◇実施予定

○フィールド12回 座学10回 合計22回の講座を実施予定。

*各班が持ち回りでフィールド・座学の運営並びに実施報告書の作成。

キャリアコース

◇担当 1名

◇実施日 原則として第2・4月曜日

◇人数 12名

◇目標

- ①レギュラーコースで学んだ経験を活かし、観察会の企画・運営等総合力の向上を図る。
- ②学園の一つの組織としての認識を高め、他の部門と連携し学園活動に積極的に参画する。

◇実施予定

①年間24回の講座を実施する。(下記を含む)

②年間4回、天白公園整備クラブと共催で実施している、一般の方を対象とした「天白公園自然観察会」を継続開催する。その中で、地元との連携を深めるため、「天白の自然発見スタンプラリー」のイベント等に積極的に参画する。

③基礎科からの受託講座「冬の森の観察」を継続して実施する。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 6名

◇年間目標

- 10周年記念式典の成功を今年度の第一の目標とし、多くのOBや一般の方に来場いただけるよう努力、工夫する。
- 10年を皆で振り返ると共に、10年の歴史が次への発展に繋がる様な仕組みをつくる。

◇活動予定

○10周年記念式典の企画・運営。(計画的に他の部署と連携して成功させる)

○10年以降の発展に繋がる新規事業の開拓。

交流部

◇担当 4名

◇年間目標

- ①OB会員の活性化、親睦を目的とした特別研修を実施する。
- ②各クラスの新聞編集委員と担当スタッフとで、年4回「あらくさ」を発行する。
- ③クラブが安全、健全に実施されるよう活動を把握しサポートする。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

○現登録31名 ○会費1,000円/年

○活動方針

- 探鳥会は年に四回開催を計画する。
- 内容は探鳥観察を中心とする企画に、植物を楽しむ散策を織り交ぜる。
- 探鳥会には適宜案内人を依頼する。
- 日本野鳥の会（愛知県支部）定例探鳥会にグループ参加する企画を織り込む。
- 秋の学園祭にクラブとして出展する、そのための準備を夏ころから始める。
- 懇親会を計画して会員の親睦・交流を深める。

○活動予定

5/29「探鳥会・サンコウ鳥」 11/11「学園祭ブース出展」 12/12「探鳥会・カモ」
2/8「探鳥会・コハクチョウ」 3/初旬「探鳥会・総会・懇親会」

「写真クラブ」

○現登録43名 ○会費1,000円

○活動方針

- 自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- 活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

○活動予定

4/9「枝垂れ桃の里」 5/19・22・29「初歩の写真教室」 6/11「入笠山湿原」
7/18「揖斐川薬草の里」 9/10「小瀬鶴飼」 10/8「常滑やきもの散策道」
11/11「学園祭ブース出展・ワークショップ」 12/3「寂光院」
3/11「名古屋市農業センター」

「自然体験クラブ」

○現登録59名 ○会費1,000円

○活動方針

- クラブ員が59名と多いが、年に四回の全体行事として四つの組の持ち回りで担当する。

○目標

- 様々な自然体験を通して自然に親しみ、会員相互の親睦を図り楽しむことを目標とする

○活動予定

5/22「田植え体験・田舎暮らし」

7～9月・10～12月・1～3月に各組で行事を計画して開催。

「地質クラブ」

○現登録57名 ○会費1,000円

○活動方針

- 現地観察会にて、東海地方の地質の成り立ちを学ぶ。
- 現地観察会を年四回開催する。

○活動予定

- 6/4・10/1・1/14・3/4 年4回の観察会を予定している。

「植物クラブ」

○現登録51名 ○会費1,000円

○活動方針

- 楽しく、有意義で親睦を深めるクラブを作る。
- 年間6回の観察会を行う。

○活動予定

5/14「愛知県森林公園」 6/11「天生湿原」 7/23「伊吹山」 9/10「未定」
11/12「未定」 3/11「東山植物園・総会」

「植物アートクラブ」

○現登録17名 ○会費3,000円

○活動方針

- 初心を忘れずに、基礎を忠実に守っていく。
- 月ごとに課題を設けその内容に沿った作品を仕上げ、全員での観賞会講師の講評・助言を通じ資質の向上・親睦をはかる。

○目標

- それぞれの課題に挑戦しレベルアップを目指す。

○活動予定

4/24「細密画の自習・総会」 5/22「葉や花の細密描写」 6/26「彩色技法の自習」
7月以降は未定但し第4木曜日を活動日とする。

「ふふふキラキラクラブ」

○現登録23名 ○会費1,000円

○活動方針

- 活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

○目標

- 「森・里・川・町・海」に関連して、食を通して楽しみ相互交流をはかる。
- 発表会：年に一回、会員の「ふふふ」結果を、自分だけで独占するのではなく、楽しみを会員相互に分ちあう。

○活動予定

開催日未定 「蒲郡・生命の海科学館とホテルでフレンチ」 「清須城とビール工場」
「秋の紅葉とおいしいものを食べる」

「自然句詠クラブ」

○現登録12名 ○会費1,000円

○活動方針

- 新クラブであり、且つ大半の人が俳句の素人軍団のため、当面は前期は毎月一回、勉強会を実施しその魅力、楽しみを高め、作句に慣れる。
- 自然界の魅力を詠み、全員の句を学園祭でブース展示することを目指す。

○活動予定

勉強会「5/30・7/4・8/1・9/5」
後期はフィールドにて句詠会（日程・場所未定）

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇担当 3名

◇年間目標

第3次3カ年計画の3年目にあたり、「植生豊かな森づくりを目指す森林整備活動、学習、人材育成」を目標とし、今年度はC地区を中心に整備活動を行う。

- ◇活動日 第2・第4木曜日
◇人数 37名
◇活動区域 森林公園（植物園内）の主に北側（8.2ha）
◇具体的目標

- ①A地区・B地区の皆伐地区の観察及び学習。
- ②安全マニュアル、作業マニュアルを全員で作成する。
- ③整備地以外（移動時等）でのヘルメット着用の徹底。
- ④新会員指導のために「指導リーダー」を育成する。
- ⑤観察会・懇親会等を開催し、科員の親睦を図る。

■瀬戸里山整備科

今年度より新しく立ち上がった科であるため、今年1年をかけて活動の土台を築く。

- ◇担当 3名

◇年間目標

- 東海自然学園の「自然と環境を守るリーダーを養成する」の目的に準じ里山整備と科員の技術の習得と向上を目指す。
- 地域の方に理解を得ながら、地域に支持される活動を目指す。

- ◇活動日 第3土曜日

- ◇目標人数 12名

- ◇活動区域 瀬戸市

- ◇具体的目標
- ①どんな里山・竹林にしていくかを決定する。
 - ②整備地の地図の作成と区割りを決定する。
 - ③作業の習熟と技術のアップを目指す。
 - ④活動報告書を作成する。
 - ⑤連絡網を作成する。
 - ⑥学園祭への出展を目指す。
 - ⑦竹林・里山について学習する。
 - ⑧セブーンイレブン助成金を受託し、5回の体験学習講座を実施

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

(平成26年4月1日から平成27年3月31日)			
		(単位:円)	
科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費	891,000		
正会員受取会費	115,000		
利用会員受取会費		1,096,000	
2. 受取寄付金	300,000	300,000	
3. 受取助成金収入	461,397	461,397	
4. 事業収入			
自然活動リーダー養成講座収入	12,410,525		
普及啓発事業収入	500,000		
自然環境保全事業収入	0		
その他の事業収入	0	12,910,525	
5. その他の収益			
雑収入	50,000		
受取利息	0	50,000	
経常収益計			14,817,922
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給与手当	3,400,000		
交通費	140,000		
法定福利費	600,000		
人件費計	4,140,000		
(2)その他経費			
謝礼金	1,650,000		
教材費	800,000		
会場費	560,000		
広報費	550,000		
リーフレット代	360,000		
講師交通費	100,000		
スタッフ交通費	1,400,000		
バス代	50,000		
合宿費	2,645,000		
消耗品費	60,000		
雑費	190,000		
家賃	600,000		
接待交際費	30,000		
光熱費	120,000		
コピー機リース代	160,000		
保険料	128,977		
通信費	180,000		
郵送費	360,000		
諸会費	30,000		
その他経費計	9,973,977		
事業費計		14,113,977	
2. 管理費			
(1)人件費	180,000		
人件費計	180,000		
(2)その他の経費			
旅費交通費	30,000		
事務用費	40,000		
福利厚生費	50,000		
租税公課	250,000		
外注委託費	80,000		
雑費	40,000		
その他の経費	490,000		
管理費計		670,000	
経常費用計			14,783,977
当期正味財産増減額			33,945
前期繰越正味財産額			6,271,058
次期繰越正味財産額			6,305,003

<第5号議案>

平成26年度役員選任の件

平成26年度の役員として下記の方を選任致します。

平成26年度役員

- ・ 代表理事 横井 進
- ・ 筆頭理事 大熊 琢巳
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 古田 雅子
- ・ 理事 浅井 留美子
- ・ 理事 小田 光生
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 伊藤 準二
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 監事 藤田 昌大